

## 留学報告書 ~2年目のロンドンより~

2016.12.18

武田航平

### LONDON SCHOOL OF ECONOMICS AND POLITICAL SCIENCE

日が落ちるのも早くなり、先週あたりからぐっと寒くなってきたロンドンから二年目の博士課程の様子について報告いたします。

一年目は全員必修のコア科目とよばれる3科目の授業のみでしたが、二年目からはフィールド科目と呼ばれる複数の科目から自分の興味、関心に応じて2科目を選択して授業を取ることが求められます。僕は、自分の専門領域である国際経済学と労働経済学を取りました。国際経済学は前期(MICHAELMAS TERM)が国際貿易論を理論重視で学び、後期(LENT TERM)では国際マクロを学びます。前期は2名の教授が授業を行うのですが、前半の先生は全て講義形式、後半の先生は全てディスカッション形式でした。前半については、その内容の多くは既に一度学んだことが多かったので知識の再整理となった一方、後半では最近のワーキングペーパーを読んで、批判的に理解しプレゼンするという練習の良い機会になったと思います。労働経済学については、指導教官から勧められたことや、また他のフィールド科目に比べれば比較的自分の関心領域にも近いかな、ということで取りましたが、いま一つ面白味がないように個人的には思います。計量経済学の手法を実践的な内容で学べるという点については良いと思うのですが、内容自体がそこまで興味の湧かないものであることから深く学んでいるという感じはしないのが現状です。労働経済学を専攻している同期も似たような反応だったので、あまり深い内容には入らないのかもしれませんが。これらのフィールド科目は一年目同様、イースター休暇明けの試験で評価が決まりますが、二年目では、もう一つ、リサーチペーパー(MRES PAPERと呼ばれます)を書かなくてはなりません。これは日本でいうところの修士論文と博士論文の中間に該当するようなもので、LSEで書く初めての論文になります。提出の時期が試験日程とほぼ同時であるため、現在はこの論文を進めることに注力しています。最終的には投稿できる水準になる論文の下地となるレベルにまでもっていけることが求められます。2つのテーマを並行させており、一つは国際貿易における多国籍企業のマネジメントに関する研究、もう一つは都市における異質な労働者の住み分け、企業の集積に関する研究です。一見、どちらも大きく異なるテーマに見えますが、空間および(企業、労働者の)比較優位という大きな枠組みでとらえると共通の概念を見いだすことができます。MRES PAPERとしては理論的なフレームワークを完成させ、将来のシミュレーションあるいは実証分析につなげられるように目下、格闘中です。

ところで、二年目からLSEの経済学部付属研究機関であるCEP(CENTRE FOR ECONOMIC PERFORMANCE)というところにも所属しています(<http://cep.lse.ac.uk/new/staff/person.asp?id=10370>)。CEPは、僕が所属している国際貿易をはじめ、労働経済学、公共経済学、経済成長などいくつかの研究グループから構成されており、LSEの研究者のみならずヨーロッパ内の多くの研究者が所属しています。毎日、いずれかのグループのセミナー(主に学外の研究者が発表)、ワークショップ(主にPHDの学生が発表)が開かれています。それに加え、ヨーロッパの他の大学から来ているPHDの学生などとの交流もあり、同世代の人と研究ネタを話できる環境があるのは非常に刺激になります。またCEPでは、自分自身の研究とは別に、BREXITの影響に関する研究のRAも行っています。6月に決まって以来、BREXITはニュースや新聞を通じて毎日何かしらの話題を提供してくれていますが(その多くは政治的な話、スキャンダルですが

…)、僕たちは国際貿易理論のモデルに基づきその経済的影響をシミュレーションにより定量的に分析することを行っています。EU 内の産業連関表、貿易統計からのデータを用い、いくつかのモデルおよびシナリオを想定して、EU 各国の厚生分析を行い、最終的にはポリシーペーパーとして完成させることを目標としており、その中でもシミュレーション部分のコードを書くことが僕の主な仕事です。数値計算も一筋縄ではいかないことも多々ありますが、現実の政策決定に影響を与えられるかもしれない研究という点では日本ではあまり出来ない良い経験になっていると感じます。教授たちがBBCや国会などでこの研究について説明しているのを見ると、その背景を知っている分、なかなか面白いです。日本でもTPPについて、このような研究が出来ると思いますが、どうでしょう。

一年目に比べ、授業に加え研究と、一段と忙しい日々の二年目ですが、コア科目の授業を受けるだけと異なり、自分の興味に沿った研究をできる環境が揃っており充実した毎日を過ごせています。2017年も、目下の研究をより一層進めていくように、研究に邁進していきたいと思っています。